

特集：私の教育システム情報学マップ：問いの体系化に向けて

インタラクティブな教育システム情報学マップの メタ視点からの構想

林 佑樹*

Concept of an Interactive Research Map for Information and Systems in Education from a Meta-Perspective

Yuki HAYASHI*

The research field of information and systems in education is an interdisciplinary discipline in which fruits of research have been reported while elements from various perspectives are intertwined in an extremely complicated way. In order to examine a visualization map that represents an academically essential question “what kind of study is information and systems in education?”, this article first discusses the characteristics of the research subjects related to information and systems in education. Then, axes, perspectives, and approaches to map visualization methods are explained in terms of “research question” that are important for plotting each research subject on the map. Finally, the significance and possibilities of the author’s envisioned interactive map for information and systems in education are described.

キーワード：教育システム情報学，リサーチクエストジョン，学問の体系化，インタラクティブマップ

1. はじめに

昨年より本学会誌の編集委員を務めている。本学会誌が掲げる「面白い論文，独創的な論文」を積極的に評価するというミッションステートメントのもと，学問発展に資する教育システム情報学研究とはなにかを手探りながらも学んでいるところである。このようななか，「教育システム情報学とはどのような学問なのか？」という根源的な問いを掘り下げる貴重な機会をいただいた。この学問分野に携わる一研究者としてまだまだ未熟であることを痛感しているところではあるが，本プロジェクトの取り組みを読者の皆さまとも共有しながら，我々の研究分野の根源的な問いが体系化された教育システム情報学マップを検討してゆきたいと考えている。

教育システム情報学マップを作成するうえでの重要なポイントの一つは，「教育システム情報学」を構成する“教育”，“システム”，“情報”という用語（とこれらの組み合わせ）に厳密な定義や共通認識が必ずしもあるわけではないことだと思われる。各々の研究者が解釈する教育システム情報学が多様であるからこそ，時勢の教育・学習観，要素技術や社会基盤の進展・普及などをキャッチした「教育システム情報学とはどのような学問か？」の外延をなす研究発表・論文発表の成果が蓄積されてきたともいえるだろう。本学会が設立されてもうすぐ50周年を迎えようとしている。半世紀にわたり積み上げられてきた研究成果を振り返り，この内包をなす軸や視点を教育システム情報学マップとして浮き彫りにすることは，我々の学問分野を次なるステージへと深化してゆくための有益なり

* 大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科 (Graduate School of Humanities and Sustainable System Sciences, Osaka Prefecture University)